

## B-1 企業レベルPMを支える効果的PMO～リスクマネジメント・アプローチによる実現～ 9/1 10:00 <和の魂が洋のPMBOK®をより強くする(和魂洋才)、知識と実践の一致(知行合一)>

イデオ・アクト株式会社  
代表取締役 葉山 博昭

**【セミナーの狙い】** 最近年IT業界の多くの企業でPMOが設立されているが、効果はその半数程度と言われている。企業レベルを支えるPMOを形骸化させない効果あるものとする実践的方法を説明、又PMBOK®の実践的効果への懐疑心をなくす方法についても説明。

**【セミナーコンテンツ】** ①PMOはプロジェクト側から「分かっていることを指摘されても役に立たない」という反発、又「そこまで分かっているなら代わりにやってくれ」という過剰な期待とが入り交じり、PMOが上手く機能しない例がよくある、この問題を解決しないとPMOは形骸すること、またリスク管理を中核としたPMOは効果があることを説明。②リスク管理の実践的事例、3年間の実践効果 ③よく聞かれるPMBOK®の実践上の効果への疑いは、和魂洋才という言葉を参考に「洋」のPMBOK®は和の「魂」を入れることにより解決する、又「知行合一」という考えも実践には重要であることを説明。

**【受講をお奨めする方】** PMOに従事している方、PMOに興味のある方、PMBOK®の実践方法に迷いや不安を感じておられる若いPMP、PMP候補の方

**【講師略歴】** 1970年三井情報開発入社、1977年日本ナレッジインダストリ(現アイエックス・ナレッジ)設立に参画、2006年4月イデオ・アクト株式会社設立、PMのコンサルティングを専業とし現在に至る。SQLと呼ばれる以前のRDBの海外からの導入を始めに、PMとして汎用機自動オーバーレイシステムの開発、国産汎用機OS(通信関連)の開発、金融関係のアプリケーションシステムの開発から得た技術・業務知識とトラブルプロジェクトのレスキューの経験を生かし、実践的PM、PMO支援を行っている。

## B-2 PMBOK®ガイド第3版解説 9/1 14:00 <PMBOK®ガイド第3版によるプロジェクトマネジメント知識体系の解説>

研修事業第2部会  
小溝 利也(大塚商会)



**【セミナーの狙い】** プロジェクトマネジメント(PM)の知識体系として、一昨年、米国PMI®からPMBOK®ガイド第3版が発刊された。PMBOK®をベースにしたPMP®資格認定者も全世界で約18万人となり(2006年2月)、PMBOK®は、プロジェクトマネジメントの知識体系としてデファクト・スタンダードの地位を確立しつつある。PMBOK®第3版は、「殆どの場合にほとんどのプロジェクトで、良い実務習慣として一般的にも認められていること」を知識体系として集大成している。

本講座では、PMBOK®第3版を概説し、プロジェクトマネジメントの実践に役立てることを目的とする。

**【セミナーコンテンツ】** PMBOK®フレームワーク、9つの知識エリア、44のプロセスの解説

**【受講をお奨めする方】** ①PMP®資格受験を目指す方 ②PMBOK®第3版の内容を知りたい方 ③ITC、P2M資格者の方でPMBOK®概要を知りたい方など

**【講師略歴】** 株式会社 大塚商会 システムサポート部 課長：1959年生まれ、大手運輸系の電算子会社を経て大塚商会に入社。大型汎用機のオペレータから始まり、プログラマ、システムエンジニアと一貫したIT系エンジニアの経験をもつ。民間、官公庁において販売管理、生産管理、財務管理、在庫管理などの業務システム開発やインフラ構築のPMとして活躍。PMAJ研修第2部会会員、PMI®会員、PMP®資格者。

## C-1 現場力を高める見える化手法「プロジェクトファシリテーション」 9/1 10:00 <モチベーションアップのツールと場作り>

株式会社チェンジビジョン  
代表取締役社長 平鍋 健児

**【セミナーの狙い】** 近年、ソフトウェアの短納期化・高品質化が求められています。現場力を高める秘密はプロジェクトの見える化、にあります。

本セッションでは、アジャイル開発とトヨタ生産方式からヒントを得た見える化手法を、「プロジェクト・ファシリテーション」(PF)として体系化し、実践方法を交えて紹介します。また、PM(プロジェクトマネジメント)からPFへの視点の移行を促します。

**【セミナーコンテンツ】** 見える化とは? 見える化の実践例、プロジェクトファシリテーションとは? その目的、価値、原則、実践。

**【受講をお奨めする方】** ソフトウェア開発現場で悩みをもっておられるプロジェクトマネジャー。チームリーダーを対象としますが、他に、新しい挑戦に意欲的な方であれば、どなたでも聞いていただきたい内容です。

**【講師略歴】** 1989年東京大学工学部卒業後、3次元CAD、リアルタイムシステム、UMLエディタなどの開発を経て、株式会社永和田システムにてコンサルタントとしてオブジェクト指向開発を研究、実践。2006年株式会社チェンジビジョン代表取締役社長。XPの日本メーリングリストXP-jpを運営、オブジェクト倶楽部を主宰。翻訳「XPエクストリームプログラミング導入編」、「リーンソフトウェア開発」など多数。「ハート駆動型コミュニケーション」をモットーに、人に感動を与えられるコンサルタントを目指している。

## C-2 PMOツール活用によるプロジェクト成功のシナリオ 9/1 14:00 <効果的なプロジェクト推進の仕組みを検証する>

マイクロソフト株式会社 システムテクノロジー本部ビジネスプロダクティビティテクノロジー部  
浦 正樹、安田 和司

**【セミナーの狙い】** 近年、わが国でも経営戦略上の必要性からPMOを設置する動きが加速している。ところが、そのうちの多くは、漠然とした期待感に応えるための具体的な施策を持ち合わせていないように見える。

本セミナーでは、プロジェクト型経営においてPMOが果たすべき役割を検討する。その上で、PMOツールの機能と活用方法について検証を加える。

**【セミナーコンテンツ】** ①なぜ今、プロジェクト型経営なのか ②マルチ・プロジェクト環境では組織の調整力が勝敗を分ける ③PMOの種類と役割 ④PMOツールの機能と活用シナリオ(実演を含む) ⑤組織的なプロジェクトマネジメントの導入はなぜうまくゆかないのか ⑥PMOをデザインする

**【受講をお奨めする方】** ①組織の上級管理者 ②PMOのメンバー ③プロジェクトマネジメント導入担当者 ④プロジェクト・マネジャー/ライン・マネジャー ⑤マルチ・プロジェクト環境における組織体制のあり方に興味をお持ちの方

**【講師略歴】** 浦 正樹  
1984年横浜国立大学工学部機械工学科卒。いすゞ自動車、大塚商会、アルテミス インターナショナル、ブライズウォーターハウスコーパース コンサルタント(現IBMビジネスコンサルティングサービス)を経て、2003年にマイクロソフトに入社。製造業を中心に、プロジェクトマネジメントの導入・立ち上げの経験をもつ。早稲田大学非常勤講師。著書に「失敗する前に読む プロジェクトマネジメント導入法」(翔泳社)がある。